

令和2年度 学力向上研究指定校事業第2回連絡協議会・報告資料

令和2年度 of 取組の概要

学 校 名	気仙沼市立新城小学校	主な取組教科	国語科	
研 究 主 題	思いや考えを、分かりやすく伝え合い、共に学ぶ児童の育成 —どの子にも分かる・できる国語科の授業づくりを通して—		研究年次	2 / 3 年次

1 今年度の主な学力向上の取組と成果

学力向上の取組	成 果	評価の根拠
○学習のねらいを明確にするための焦点化 (単元構想の工夫, 学習課題・発問の精選)	・単元を通して付けさせたい力が明確になり, 分かりやすい授業につながった。	・児童アンケートでは 93.8%がめあてが分かりやすい, 94.8%が先生の説明や質問が分かりやすいと回答した。
○分かりやすい授業につなげる視覚化・構造化 (板書の工夫, 学習展開の工夫)	・児童が見通しを持って学習に取り組んだり, 学習内容の理解を助けたりすることにつながった。	・児童アンケートでは 87.6%が板書を見て学習内容が分かる と回答し, 7月に比べて 6.7%向上した。
○対話的な学びにつなげる共有化 (対話の目的や方法の工夫, 教師のかかわり方の工夫)	・児童が考えを持ち, 表現することに慣れ, 目的を意識して話し合い活動を行えるようになった。	・児童アンケートでは 90.0%がペアやグループで考えを伝えられる, 93.8%が考えの共通点や相違点に気付くことができると回答した。

2 残された課題・要因と今後の方向性

課題・要因	今後の方向性
・グループでの話し合いでは, グループの考えを端的にまとめたため, 多様な考えが引き出せなかった。多様な考えを深める共有化の取組は更なる工夫が必要である。	・対話的な活動を継続し, 考えをまとめる活動に加えて, 教師や児童同士がそれぞれの考えのよさや違いについて全体で共有する場面を増やす。
・授業のまとめを教師が一方的にまとめていたが, 児童が主体的にまとめられるようにすることが必要である。	・授業のまとめを児童自身で考えさせる時間を設定するなど, 児童が主体となって活動する場面を増やす。